

2023年度中間期 決算発表

2023年11月10日(金)

*F*プロジェクト
Future for Fukui &
Fukuibank & Fukuohbank



いつも、いつでも、いつまでも。
福井銀行



ゆめBANK
福邦銀行

- 1. 2023年度中間期決算概要 …… 3頁
- 2. 中期経営計画 I の取組みと進捗状況 …… 15頁
- 3. 企業価値向上に向けた取組み …… 28頁
- 4. サステナビリティへの取組み …… 36頁

1. | 2023年度中間期 決算概要

*F*プロジェクト
Future for Fukui &
Fukuibank & Fukuohbank



いつも、いつでも、いつまでも。
福井銀行



ゆめBANK
福邦銀行

	Fプロジェクト 【連結】	福井銀行 【単体】	福邦銀行 【単体】
コア業務純益 (除く投信解約損益)		20.5 億円 前年同期比 $\Delta 9.3$ 億円 ↓	4.2 億円 前年同期比 $+3.4$ 億円 ↑
経常利益	28.1 億円 前年同期比 $\Delta 1.2$ 億円 ↓	22.7 億円 前年同期比 $\Delta 4.5$ 億円 ↓	5.7 億円 前年同期比 $+5.5$ 億円 ↑
中間純利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益 17.6 億円 前年同期比 $\Delta 2.0$ 億円 ↓	15.8 億円 前年同期比 $\Delta 3.5$ 億円 ↓	4.0 億円 前年同期比 $+4.1$ 億円 ↑
概要	<ul style="list-style-type: none"> グループ全体でお客さまの本業支援や資金繰り支援に継続して注力したことで貸出金利息が増加。 前年度計上した投資信託解約益の反動による利息配当金の減少を主因に、経常利益は減少。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸出等の本業収益は着実に増加。 先行投資としての物件費費消が進行中。 有価証券運用はリスクコントロールを重視。 与信コストは当初計画の範囲内。 	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業・個人向け貸出が順調に推移。 有価証券運用一本化により利息配当金が計画通り減少。 上記に基づく有価証券売却益計上。

【福井銀行】コア業務純益(除く投信解約損益)

本業収益は着実に増加。先行投資としての物件費費消が進行。

福井銀行【単体】

(単位:億円)

コア業務純益の増減要因
(除く投信解約損益)

コア業務純益

(除く投信解約損益)

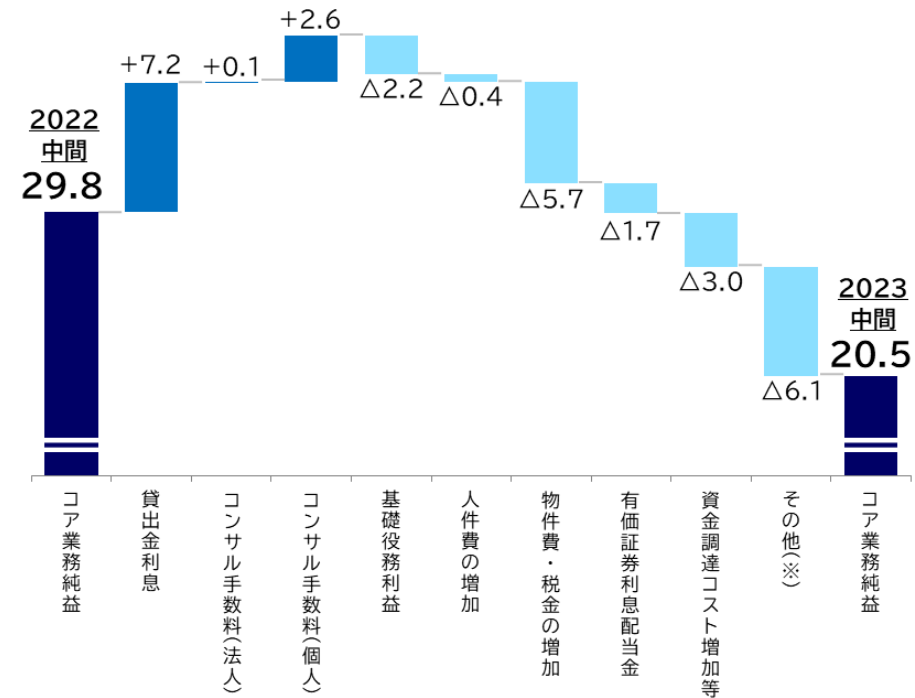
前年同期比

20.5億円 Δ 9.3億円 

(単位:億円)

2023中間期 前年同期比

資金利益(※1)	114.9	+2.4
貸出金利息	89.0	+7.2
有価証券利息配当金(※1)	27.7	Δ 1.7
資金調達費用(Δ)	5.9	+2.0
役務取引等利益	15.9	+0.5
その他業務利益(※2)	Δ 3.0	Δ 6.1
経費(Δ)	107.3	+6.1



(※1)除く投信解約損益 (※2)除く債券関係損益

(※)その他…外為売買損益等

【福井銀行】貸出金

平残・利回りともに上昇し、貸出金利息は前年同期比増加。

福井銀行【単体】

貸出金利息

前年同期比

89.0億円 +7.2億円↑

(単位:億円、%)

2023中間期 前年同期比

貸出金平残 19,452 +1,008

貸出金利回り 0.91 +0.03

中小企業等貸出金 残高(末残)

前年同期比

13,136億円 +1,000億円↑

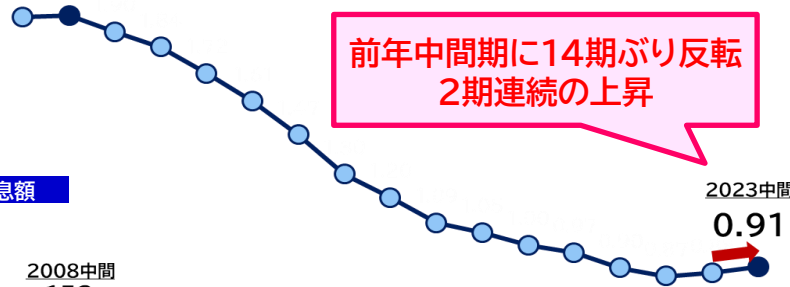
✓ 北陸三県における貸出金増加のほか、ファンダメンタルドメインにおいて戦略的な仕組貸出を実施。(25頁)

(単位:億円、%)

利回り

2008中間

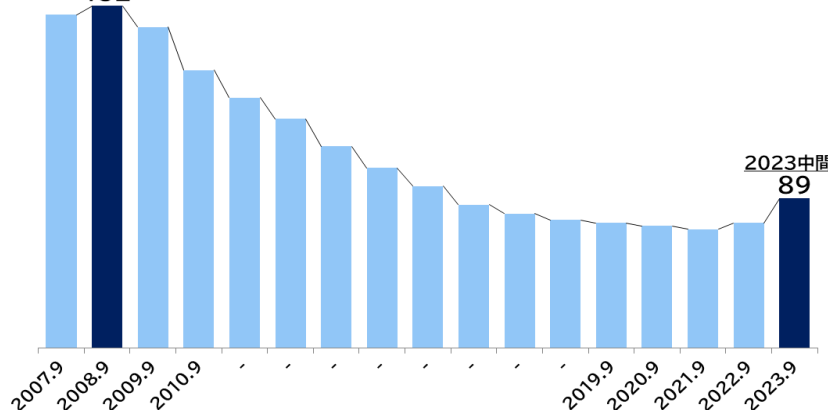
1.97



利息額

2008中間

152



【福邦銀行】コア業務純益(除く投信解約損益)



貸出金利息が増加。有価証券運用一本化により利息配当金は計画通り減少。

福邦銀行【単体】

コア業務純益

(除く投信解約損益)

前年同期比

4.2億円 +3.4億円↑

(単位:億円)

2023中間期 前年同期比

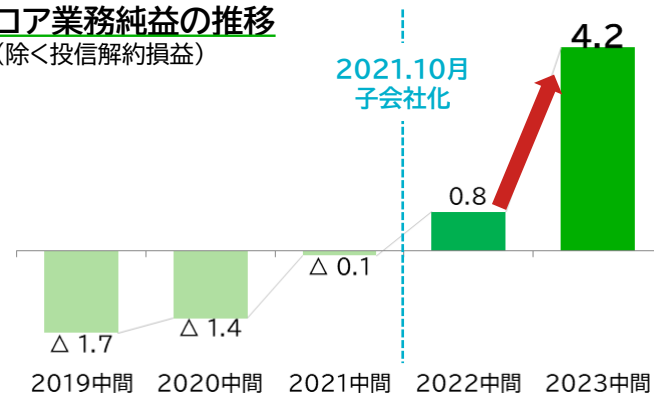
資金利益(※1)	25.3	△0.5
貸出金利息	24.6	+3.7
有価証券利息配当金(※1)	0.7	△4.1
資金調達費用(△)	0.1	△0.0
役務取引等利益	1.0	△0.0
その他業務利益(※2)	2.9	+3.9
経費(△)	25.2	+0.0

(※1)除く投信解約損益 (※2)除く債券関係損益

コア業務純益の推移

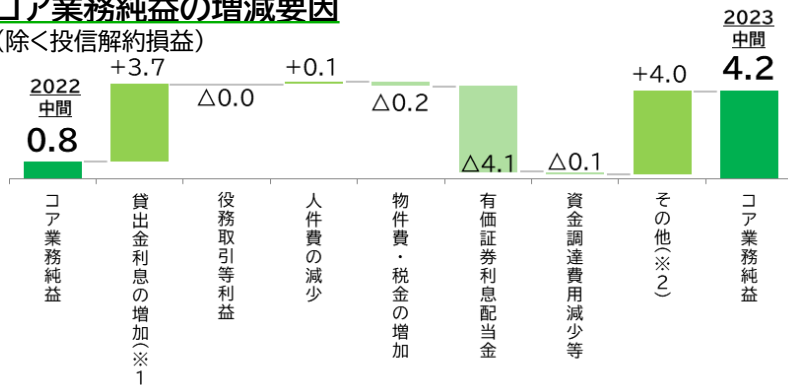
(除く投信解約損益)

(単位:億円)



コア業務純益の増減要因

(除く投信解約損益)



(※1)親会社向け貸付金利息(1.7億円)を含む(※2)その他…有価証券関連損益等

【福邦銀行】貸出金

貸出金利息が順調に増加。

福邦銀行【単体】

貸出金利息

前年同期比

24.6億円 +3.7億円 ↑

(※)親会社向け貸付金利息(1.7億円)を含む

(単位:億円、%)

2023中間期 前年同期比

貸出金平残 3,909 +593

貸出金利回り 1.25 ±0.00

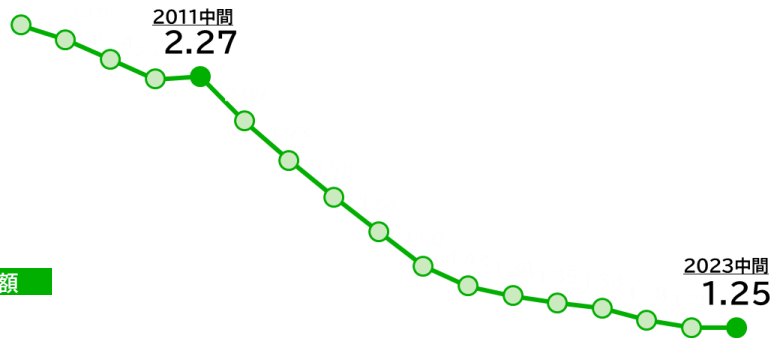
中小企業等貸出 残高(未残)

前年同期比

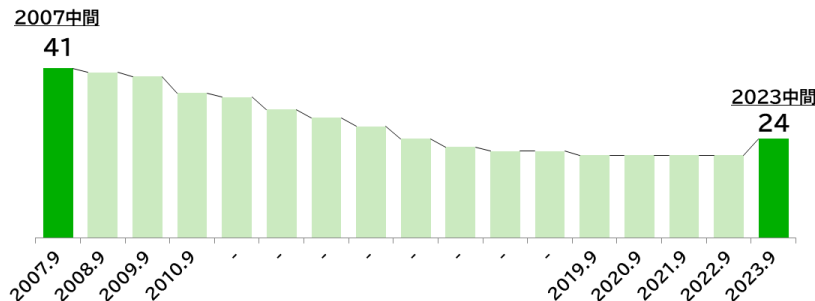
2,799億円 +146億円 ↑

利回り

(億円、%)



利息額



役務取引等利益

福井銀行【単体】

福邦銀行【単体】

役務取引等利益

前年同期比

役務取引等利益

前年同期比

15.9億円 +0.5億円↑

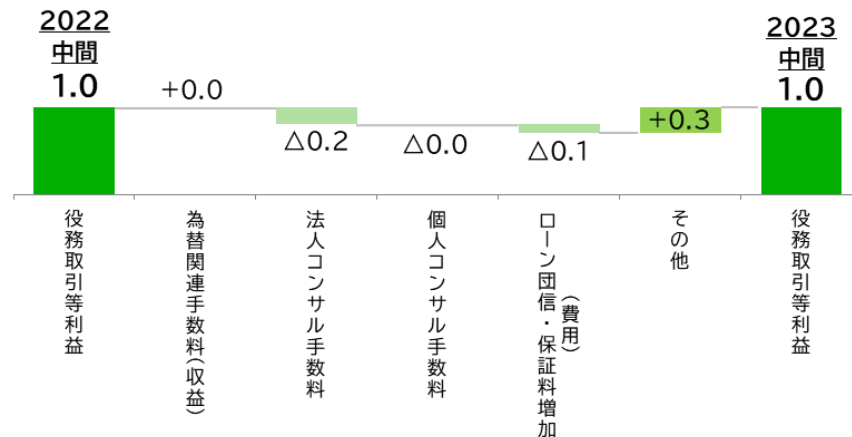
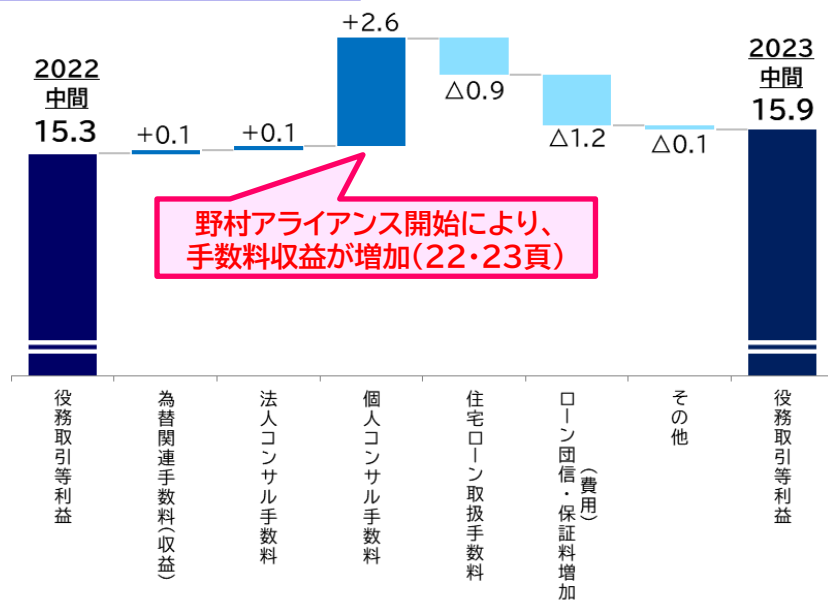
1.0億円 △0.0億円→

役務取引等利益の増減要因

(単位:億円)

役務取引等利益の増減要因

(単位:億円)



経費

福井銀行【単体】

福邦銀行【単体】

経費

前年同期比

経費

前年同期比

107.3億円 +6.1億円↑

25.2億円 +0.0億円→

(単位:億円)

2023中間期

前年同期比

(単位:億円)

2023中間期

前年同期比

人件費	53.2	+0.4
-----	------	------

人件費	11.6	△0.1
-----	------	------

物件費・税金	54.0	+5.7
--------	------	------

物件費・税金	13.6	+0.2
--------	------	------

中長期的な経費削減に向けた取組み

1. 人的資源配分の最適化(26頁)

BinBや本部機能統合により捻出された人員を、戦略的再配置。

2. 営業店事務効率化

福井銀行「ミッションごじゅぱ」・福邦銀行「ジムサク!」を実施。

職員より改善提案を募集し、営業店事務を簡素化・削減。

3. 中長期的なシステム投資案件のコントロール

システムコスト検討会による大型システム投資やランニング費用の予実管理を実施。中長期的なシステム更改タイミングを見据え、投資スケジュールを検討。

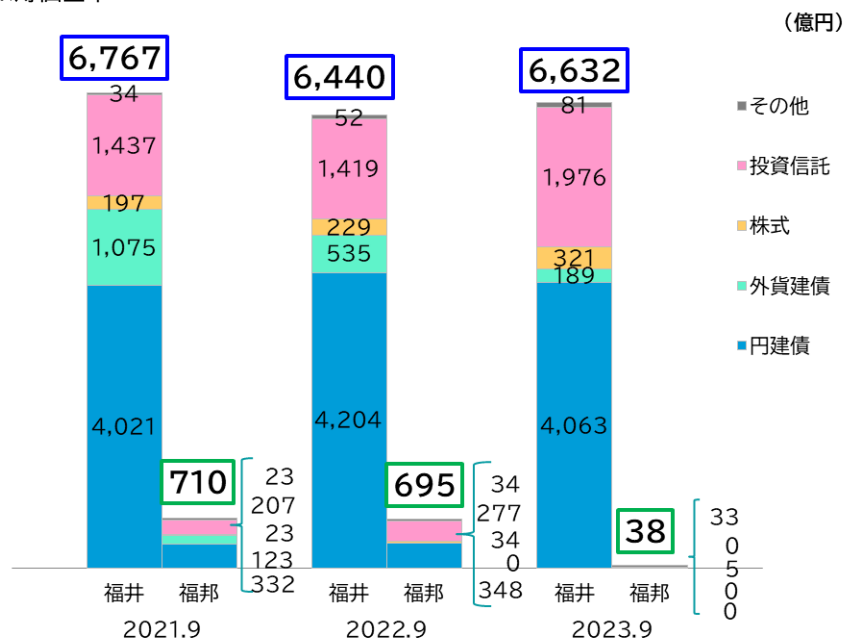
【福井銀行】中期経営計画Ⅰ達成に向けた大型先行投資を計画

	2023年度	2024年度
チャンネル強化	FプロジェクトATM稼働開始	
営業力強化	野村アライアンス開始に伴う初期費用	
営業店業務効率化	店頭タブレット端末/セルフキャッシュ導入	
グループ体制強化	グループウェアの統合	

有価証券運用一本化とリスクコントロールを重視したポートフォリオ構築

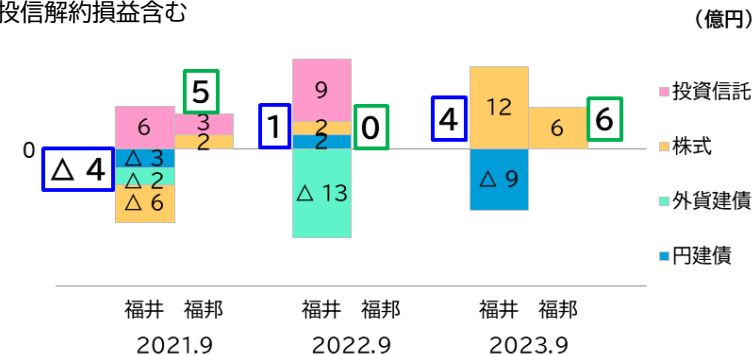
有価証券残高の推移

※簿価基準



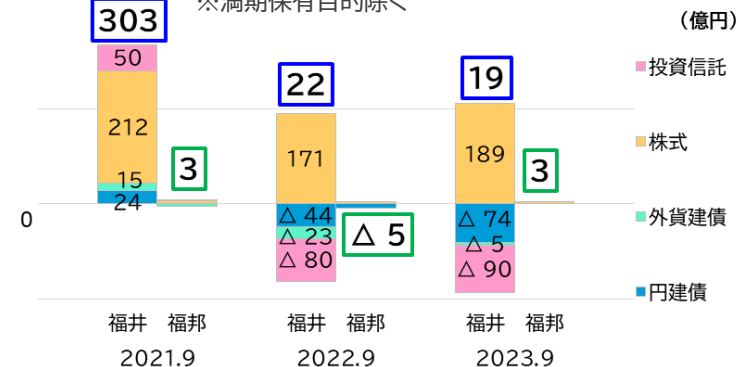
有価証券売買・償還等損益の推移

※投信解約損益含む



有価証券評価損益の推移

※満期保有目的除く

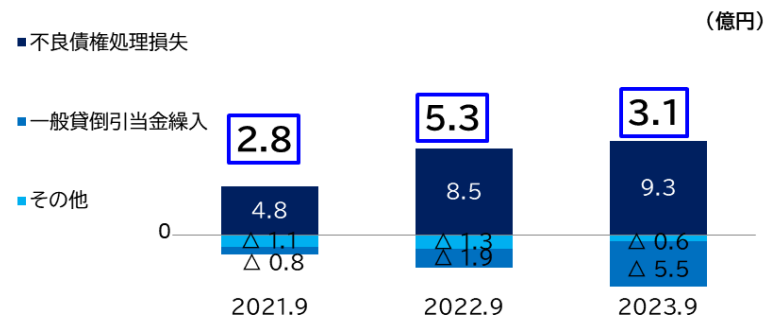


- ✓ Fプロジェクトの財務基盤強化及び経営効率化の観点から、グループ全体の有価証券運用を福井銀行に一本化。
- ✓ 市場変動を考慮したポートフォリオ運営を実施。

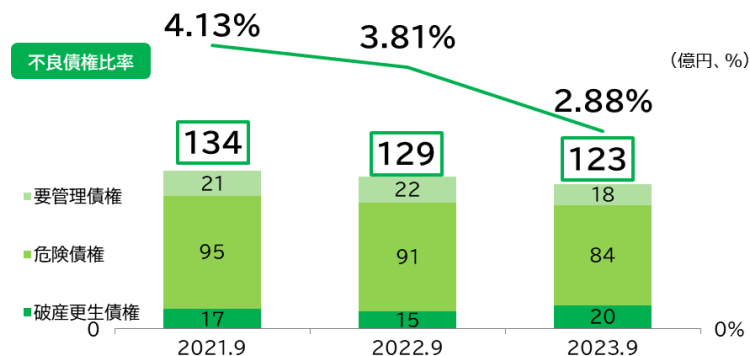
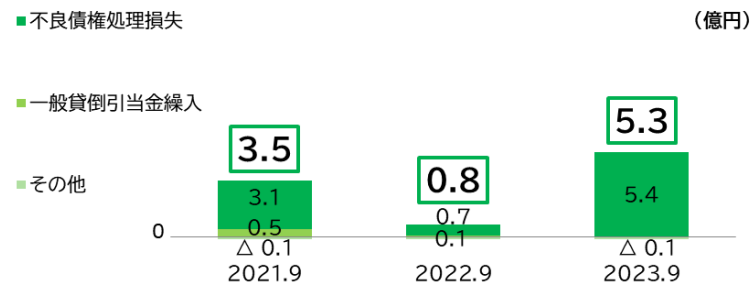
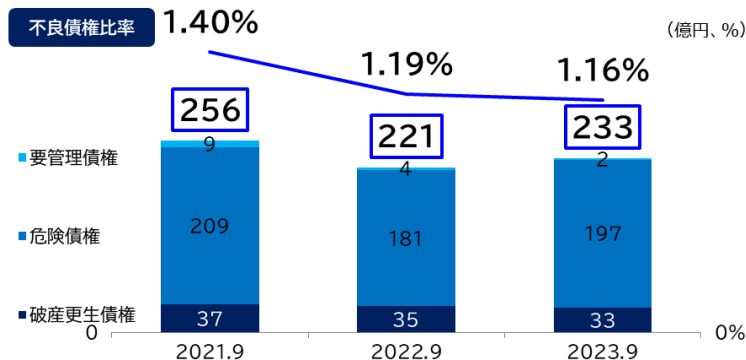
与信関連費用・不良債権

与信コストの発生は当初計画の範囲内

与信コストの推移



不良債権の状況



業績予想(2024年3月期)

業績予想は当初より変更なし。

Fプロジェクト【連結】

(単位:億円)

	2023年3月期	2024年3月期	
		(予想)	2023.3比
業務粗利益	252.2	331.0	+78.7
経常利益	7.8	27.0	+19.1
当期純利益(※)	18.0	15.0	△ 3.0

※親会社株主に帰属する当期純利益

福井銀行【単体】

	2023年3月期	2024年3月期	
		(予想)	2023.3比
業務粗利益	189.4	252.0	+62.5
コア業務純益	60.6	24.0	△ 36.6
経常利益	26.6	23.0	△ 3.6
当期純利益	29.5	12.0	△ 17.5

【当中間期の経営成績】

- 2023年5月12日に公表した業績予想を上回る進捗となり、10月27日に業績予想の修正を開示。

【2024年3月期通期の業績予想】

- 貸出金利息などの本業収益については引き続き順調に推移する。
- 一方で、金融市場の今後の動向により、有価証券ポートフォリオの入替に伴う追加コスト発生や、物価上昇の影響等に伴う与信関連費用発生の可能性も見据え、通期業績予想は当初公表より変更なし。

連結当期純利益(※)

2024年度目標 **40億円** 以上

2023年度中間期実績

※親会社株主に帰属する当期純利益

17.6億円
(目標進捗率: 44.0%)

連結自己資本比率

2025年3月末目標 **7.0%** 以上

2023年度中間期実績

7.56%
(目標比: +0.56ポイント)

連結コアOHR

2024年度目標 **77.0%** 以下

2023年度中間期実績

80.2%
(目標比: 3.2ポイント未達)

連結ROE

2024年度目標 **3.0%** 以上

2023年度中間期実績

2.84%
(目標比: Δ 0.16ポイント)

2. | 中期経営計画 I の取組み と進捗状況

*F*プロジェクト
Future for Fukui &
Fukuibank & Fukuohbank



いつも、いつでも、いつまでも。

福井銀行



ゆめBANK

福邦銀行

中期経営計画 I (2022年4月～2025年3月)

プロジェクト Vision 2032 私たちが 職員・お客さまの多様なチャレンジに伴走し 「地域価値循環モデル」を実現します

[Fプロジェクト Vision 2032]の第Iフェーズとして、**スタートダッシュを切る3年間**と位置付けます。

ウェルビーイング戦術

役職員にウェルビーイングの考え方や取組みを浸透させる3年間とします。

コンサルティング戦術

地域・法人・個人のお客さまに、伴走型のコンサルティングを浸透させる3年間とします。

ユーザビリティ戦術

デジタル投資の加速と店舗・ATMの縮小により、ヒト×デジタルのハイブリッド体制をつくる3年間とします。

ファンダメンタル戦術

資金運用の多様化を進め、事業活動の原資となる資金運用収益の基盤を確立する3年間とします。

機能別戦術

経営資源のメリハリある配賦を実行し、上記3戦術が確実に実行される体制を構築します。



Fプロジェクト Vision 2032

2028.4 - 2032.3
中期経営計画III

2025.4 - 2028.3
中期経営計画II

2022.4 - 2025.3
中期経営計画I

戦術ごとの取組み

ウェルビーイング戦術 39頁

コンサルティング戦術

地域 18頁

法人 20頁

個人 22頁

ユーザビリティ戦術 24頁

ファンダメンタル戦術 25頁

機能別戦術

人事・チャネル 26頁

デジタル 27頁

中期経営計画前半の振り返り

事業再構築により、コンサルティングドメイン強化に注力

事業の再構築

✓ 経営資源の選択と集中

- BinBおよび本部機能統合による人員再配置
- 営業店事務削減による営業活動時間創出

✓ マインドチェンジ

- グロースゾーンで感じるウェルビーイング

コンサルティング機能の強化

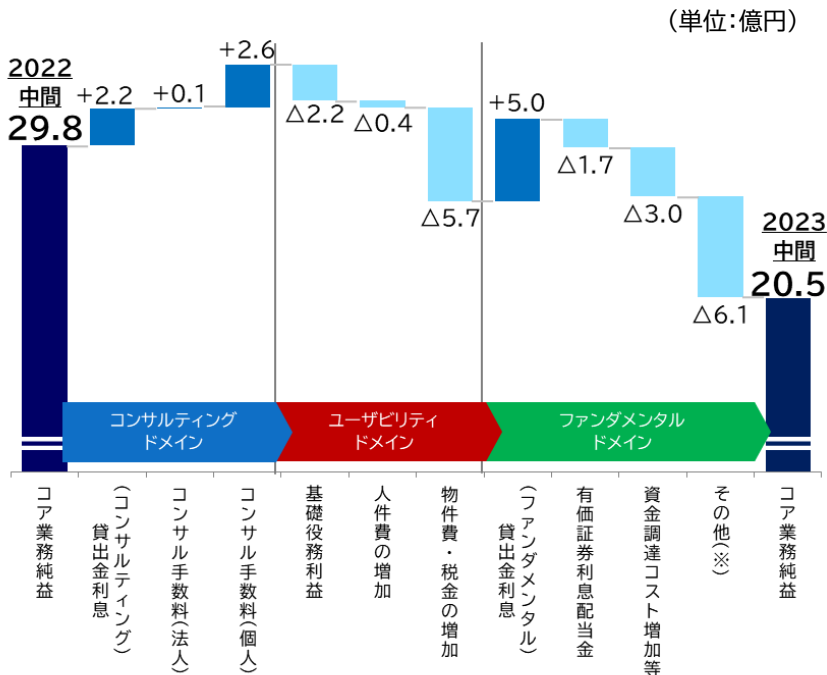
✓ 地域金融機関としての「本業」を深堀り

- 基盤地域のお客さまの課題「発見」「解決」

「本業(預金、融資、為替業務)」から、
それらを含む「課題解決業」へ

【ドメイン別】コア業務純益の増減

福井銀行(単体)・除く投信解約損益



コンサルティング戦術(地域)

2024年3月 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けての地域活性化支援

まちづくり支援

北陸新幹線の福井・敦賀開業に向けて、新幹線駅周辺のまちづくりをサポート。

福井駅 福井駅前電車通り北地区A街区

再開発事務局の運営サポート



芦原温泉駅



「まちづくり協議会」の運営事務を受託。ホテル事業者の進出を支援。

越前たけふ駅

敦賀駅 敦賀駅西土地活用事業

選定された事業者(SPC)に対し、資金面や事業者紹介を通じた支援



北陸新幹線N700系
©JR東日本鉄道

観光・物販の販路拡大支援



ふくいヒトモノデザイン株式会社

2022年7月設立。当行グループの地域ネットワークを活用し、福井県内の観光地や地域資源をつなぎ、観光・物販事業の販路拡大を支援。



Fプロジェクトによる観光・まちづくり支援件数

2022年4月～
2023年9月累計
(2行合算)

221件

コンサルティング戦術(地域)

福井銀行グループが地域のDX化を支援



ふくいのデジタル

Digital for Fukui Co.,Ltd.

- ✓ 2022年9月に地域のDX推進を目的とし、株式会社福井新聞社と共同で設立。スマートフォンアプリ「ふくアプリ」を提供開始。
- ✓ 各団体・自治体・企業と連携し、DXによる新たな体験価値を提供。

福井モデルのウェルビーイング・デジタル社会を実現



2023年11月 「ふくいはぴコイン」スタート

福井県からの受託事業「福井県デジタル地域通貨基盤事業(ふくいはぴコイン)」を開始。「ふくいはぴコイン」を通じて、行政事務の高度化、県民の行動変容促進、地域コミュニティの活性化、地域経済の活性化を目指します。

2023年度に予定している事業

- プレミアム付地域商品券
- ふく育ポイント
- 出産・子育て応援ギフト
- ボランティア実証事業 (2023年度はあわら市で実証事業)
- 健康実証事業 (2023年度は池田町で実証事業)
- 若狭町プレミアム付商品券事業



「本業(預金、融資、為替業務)」から、それらを含む「課題解決業」へ

コアカスタマー化戦略

※「コアカスタマー化」の定義

地域価値循環に資するお客さま(コアカスタマー)の成長、創出により、地域と銀行双方の将来基盤確立を目指す。

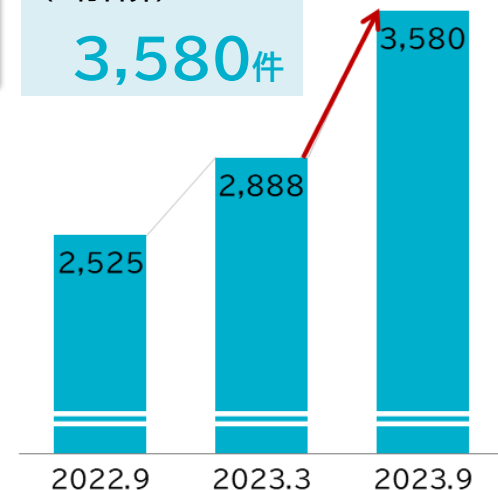
お客さまの「ありたい姿(夢)」と「真の課題」を共有し、「解決」に向けてグループ一体での「伴走支援(金融・非金融)」を、お客さまのステージに応じてスピーディーに提供することで、お客さまの成長を支援し、その感謝と信頼を付加価値対価(値決め)へつなげる戦略。



課題「発見」コンサルティング件数

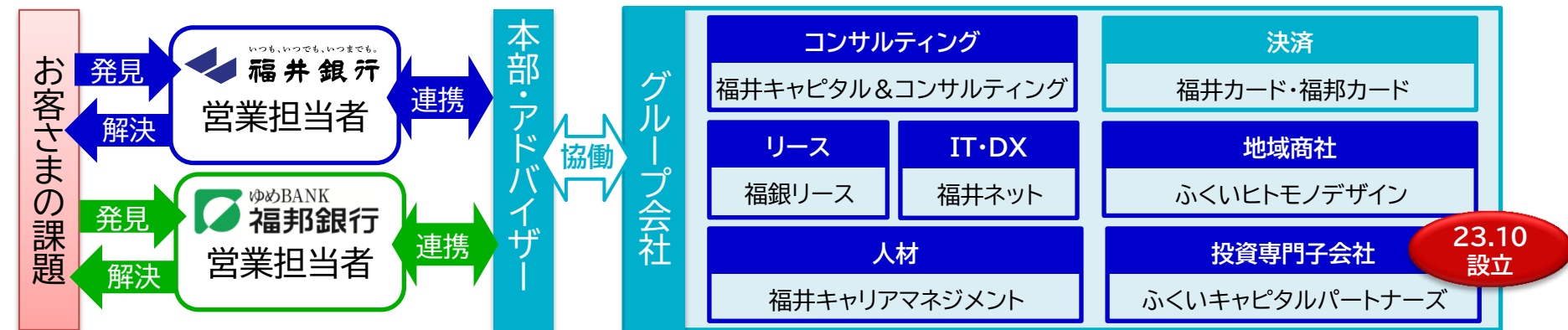
2023上期実績
(2行合算)

3,580件



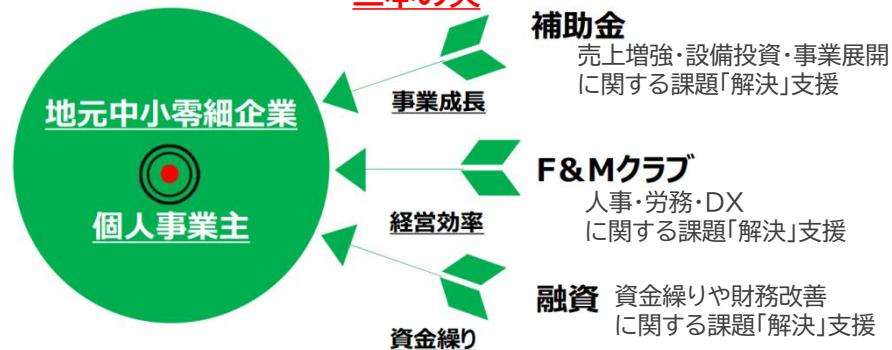
コンサルティング戦術(地域・法人)

グループ一体となった、お客さまの課題「解決」支援



【福邦銀行】中小零細企業を中心とした課題「解決」支援

三本の矢



法人コンサルティング収益(※1) +グループ会社売上高(※2)

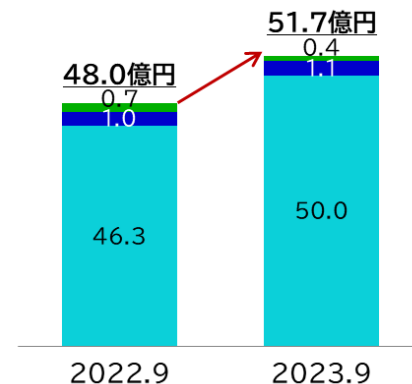
51.7億円

前年同期比

+3.6億円

※1福井銀行単体および
福邦銀行単体合算
※2グループ間の業務委託料等を
除く売上高
(福井信用保証サービスを除く)

■グループ会社 ■福井銀行 ■福邦銀行



コンサルティング戦術(個人・アセットコンサル)

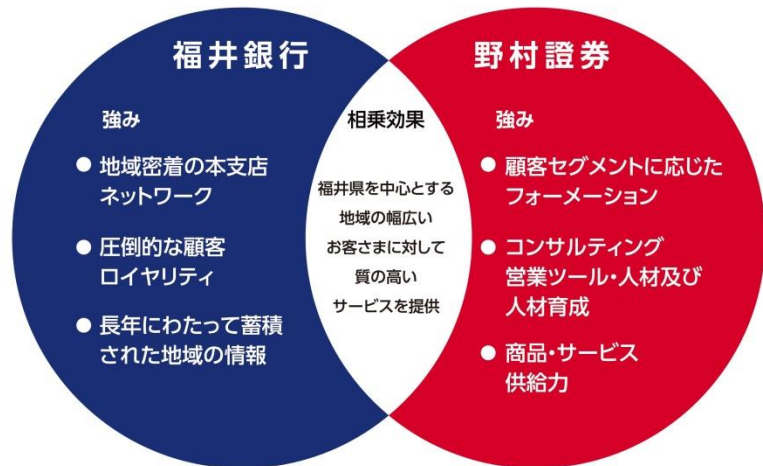


FUKUI × NOMURA
alliance

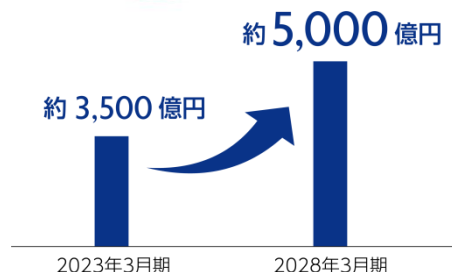
スローガン ～「福井の未来に、金融の力を。」～

金融商品仲介業務における包括的業務提携

2023年5月 福井県内4か所にコンサルティングプラザを開設。



2028年3月期までに
両社合計の預り資産残高を
5,000億円へ拡大すること
を目指す



【コンサルティングプラザの役割】

1. 適切な情報提供と丁寧なヒヤリング

資産運用に関する情報を丁寧かつ親身にご説明、お客さまの現状やお考えをヒヤリング

2. きめ細やかなコンサルティングの実践

お客さまのご意向や将来の目標などに応じた適切な金融資産構成のご提案、ライフイベントの変化に合わせたメンテナンス

3. 大切な家族へ想いを形にする

保有資産や家族構成、ご家族への想いを踏まえた、お一人おひとりに合った相続対策のご提案

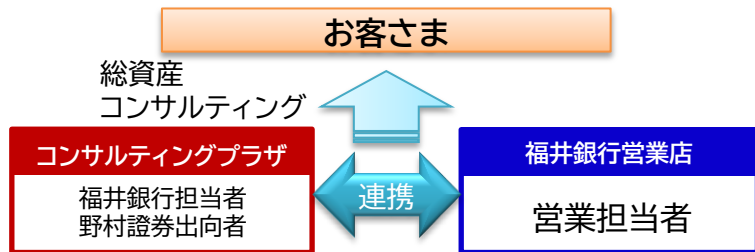
コンサルティング戦術(個人・アセットコンサル)



FUKUI × NOMURA
alliance

2023年5月よりアライアンス業務スタート。

- ✓ 野村証券より約50名の出向者を受け入れ、業務開始。
- ✓ コンサルティングプラザと福井銀行営業店が連携し、「総資産コンサルティング」を実践。



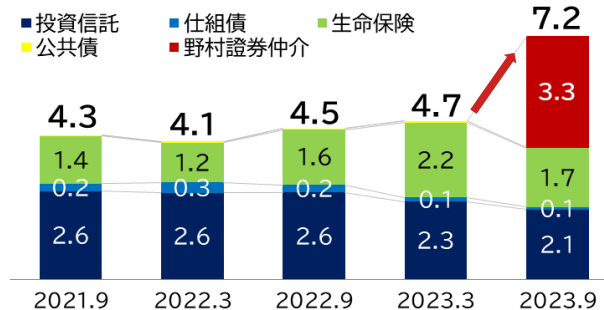
営業店とコンサルティング プラザの連携件数

2023上期累計
(業務提携開始以降)

1,389件

アセットコンサルティング手数料推移

※福井銀行単体(単位:億円)



コンサルティングプラザ行員の声

- ✓ これまでは、情報量、ツール・商品ラインナップ等に限界があり、限られた提案にとどまっていた。業務提携開始後、当初は証券会社の専門用語の理解が難しかったですが、勉強会を繰り返したり、隣の席の野村証券出向者に相談し、背中を押してもらうことで、自信をもってお客さまへ最適な提案ができるようになりました。お客さまともこれまで以上に様々な会話が出来るようになり、喜んでいただいています。



コンサルティングプラザでの勉強会の様子

お客さまよりいただいた声

- ✓ 福井銀行の行員は普段から親しみやすい存在です。アライアンススタート後は、説明のレベルが質・量ともに大きく変わったと感じます。また、新しい提案資料で説明してもらい、私が抱えていた不安や課題を整理し、どうするべきかを明確に示していただきました。担当の方は「親しみやすい行員」から「信頼できる行員」へ変わりました。
- ✓ これまで、事業の融資は銀行へ、運用は証券会社へ相談していました。提携したことでワンストップでの相談が可能になり、ビジネスパートナーとして、福井銀行の存在感が増しています。

金融インフラサービスの利便性向上

【福井銀行】ふくぎんアプリの機能拡充

- ✓ 2023年7月よりATMでキャッシュカードを使わずに入出金できるサービス「スマホATM」を追加。



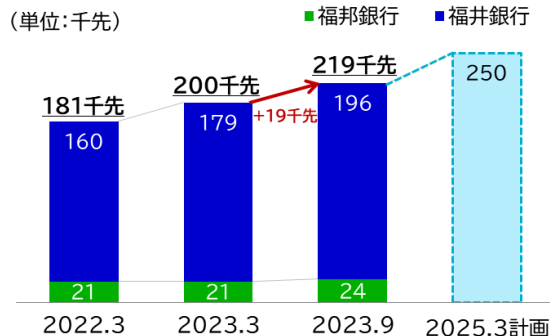
ふくぎんアプリでできること

- 24時間リアルタイムで残高・入出金明細照会
- 窓口・ATMよりおトクに振込・振替
- 目的や目標を決めて「つみたて」預金
- カードローンの借入・返済
- 通帳レス口座「ふくぎんWeb口座」への切替
- キャッシュカードレスでセブン銀行ATMでの入出金が可能

インターネットバンキング・アプリ登録先数の推移

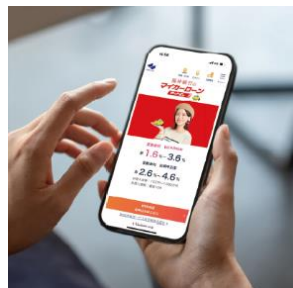
2023年9月末
(2行合算)

21.9万件



【福井銀行】無担保ローンWEB完結サービスの開始

- ✓ 2023年5月より無担保ローンのWEB完結サービスの取扱開始。
- ✓ 申込みから契約まで来店不要に。



WEB完結サービスでの取扱商品

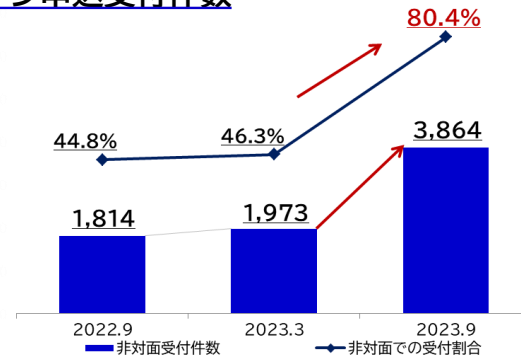
- マイカーローン「カットビくん」
- フリーローン
- フリーローンネクスト
- リフォームローンプラス
- 教育ローン(一括借入型)
- 教育ローン(カードローン型)
- カードローン
- カードローンプレミアム

非対面による無担保ローン申込受付件数

2023年上期累計

3,864件

- ✓ 非対面による申込受付割合が約8割となり、窓口での来店受付時間削減に寄与。



運用体制の一本化と運用資産の多様化

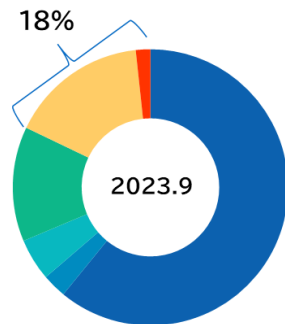
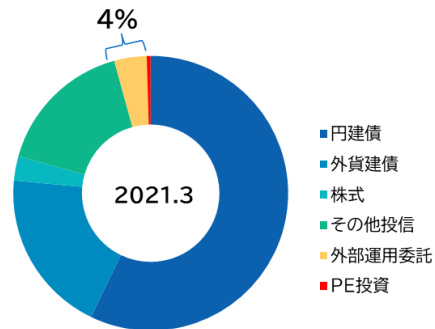
体制一本化

運用資産の多様化

有価証券

- ✓ Fプロジェクトの財務基盤強化及び経営効率化の観点から、グループ全体の有価証券運用を福井銀行に一本化。

【有価証券の簿価残高の割合】

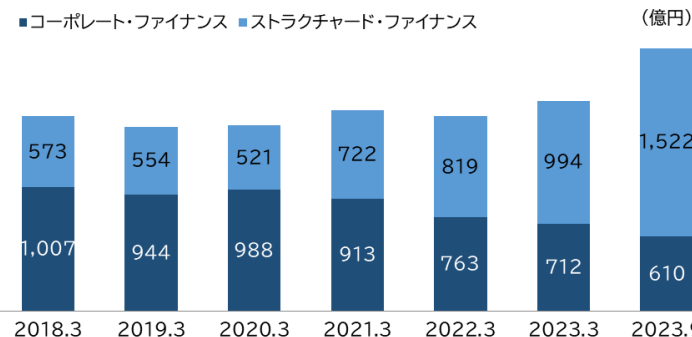


- 安定した収益獲得のため運用資産を多様化させる。
- 市場の変化と当行ポートフォリオの評価損益・期間収益の変化を認識したうえでリスクテイク、リスクコントロールを行う。

ストラクチャード・ファイナンス

- ✓ 福邦銀行において、経営資源を地元中小零細企業および個人に集中すべく、ストラクチャード・ファイナンスや地公体貸出等の新規取扱を福井銀行に集中。

【ファンダメンタルドメインによる貸出残高の推移】



- 高度化する資金調達へのニーズへの対応と収益獲得のため、ストラクチャード・ファイナンスを拡大。
- ストラクチャード・ファイナンス管理体制の充実(人員投入・組織的なモニタリング態勢の整備)を図る。

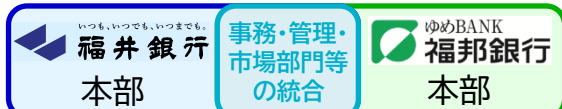
機能別戦術(人事・チャンネル)

コンサルティング分野や新事業分野への戦略的人員配置

BinB(店舗内店舗)/Bank in Bank



本部機能統合



人員創出

60名(※)

人員創出

56名(※)

※2022年4月～2023年9月
累計実績

人員の戦略的再配置(純増) ※2022年4月～2023年9月累計実績

コンサルティング

15名

福井キャピタル&コンサルティング
福銀リース・福井カード
福井銀行本部アドバイザー・パートナー

新事業

16名

福井キャリアマネジメント
ふくいヒトモノデザイン
ふくいのデジタル

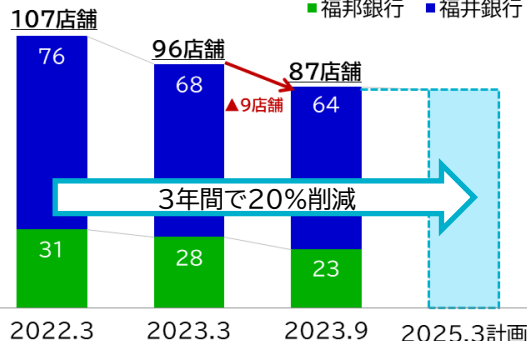
デジタル

8名

福井銀行本部

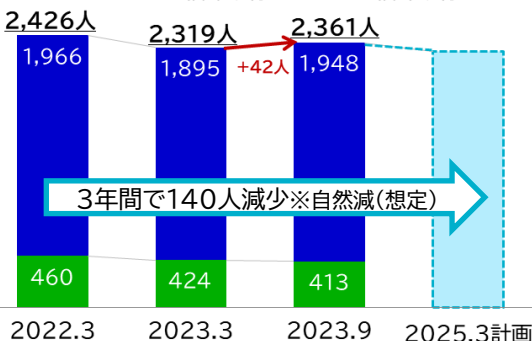
店舗数の推移

※実店舗数
※BankinBankは福邦銀行より店舗数削除
■福邦銀行 ■福井銀行



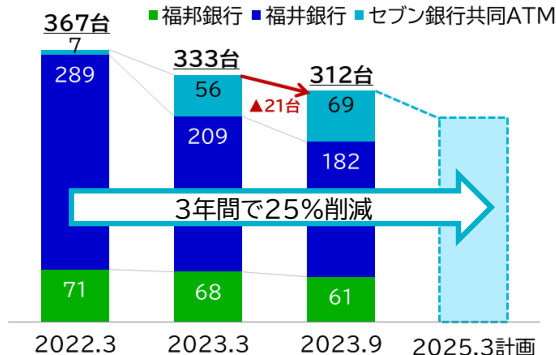
人員数の推移

※4月の新入行員入行により
上期の人員数は増加
■福邦銀行グループ ■福井銀行グループ



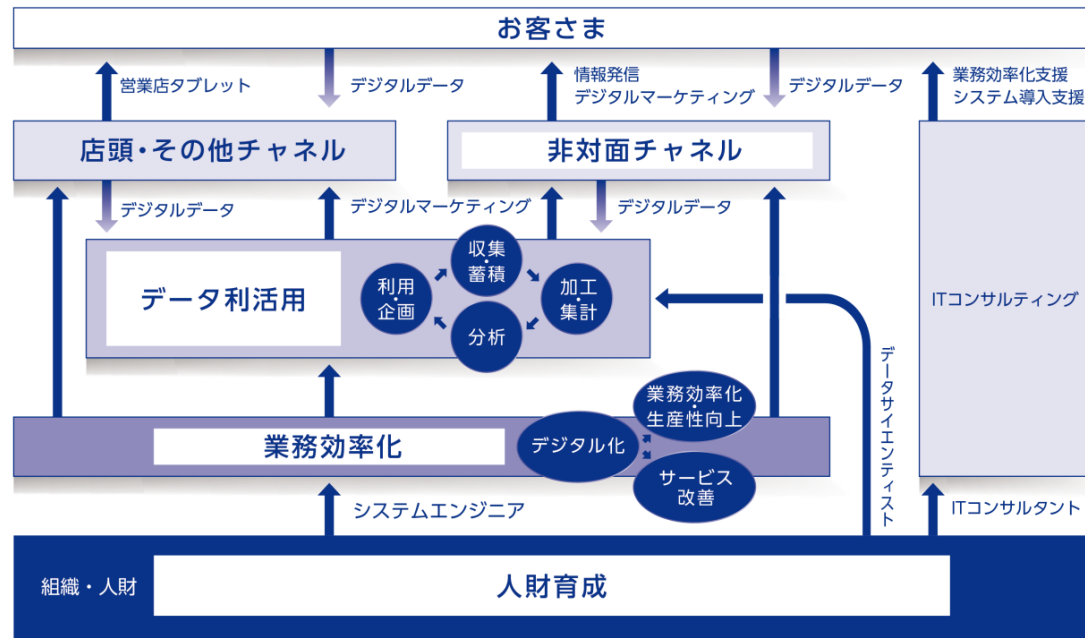
ATM台数の推移

■福邦銀行 ■福井銀行 ■セブン銀行共同ATM



デジタル利活用による利便性・生産性の向上

環境変化に適応した価値をお客さまに還元するため、デジタルインフラの整備とIT・DXを推進する体制・基盤の構築を進めています。



データ利活用

- ✓ 「フイックロス」を活用したAI開発の内製化
- ✓ データ分析ツール「KI」の活用

業務効率化

- ✓ 営業店の業務効率化
→ 【福井】ミッション「ごじゅぱ」・【福邦】「ジムサク！」
- ✓ 本部の業務効率化
→ 行動調査を活用した生産性の向上
- ✓ 生成AIの試行

人財育成

- ✓ プロモーター層の育成
→ ITコンサルティング研修の実施
- ✓ スタンダード層の育成
→ デジタルコンシェルジュの任命
- ✓ ITパスポート等の資格取得推進

ITパスポート取得者数 **201名**
(2行合算、2023年9月末時点)

3. 企業価値向上に向けた 取組み

*F*プロジェクト
Future for Fukui &
Fukuibank & Fukuohbank

いつも、いつでも、いつまでも。
 福井銀行  ゆめBANK 福邦銀行

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の要請内容

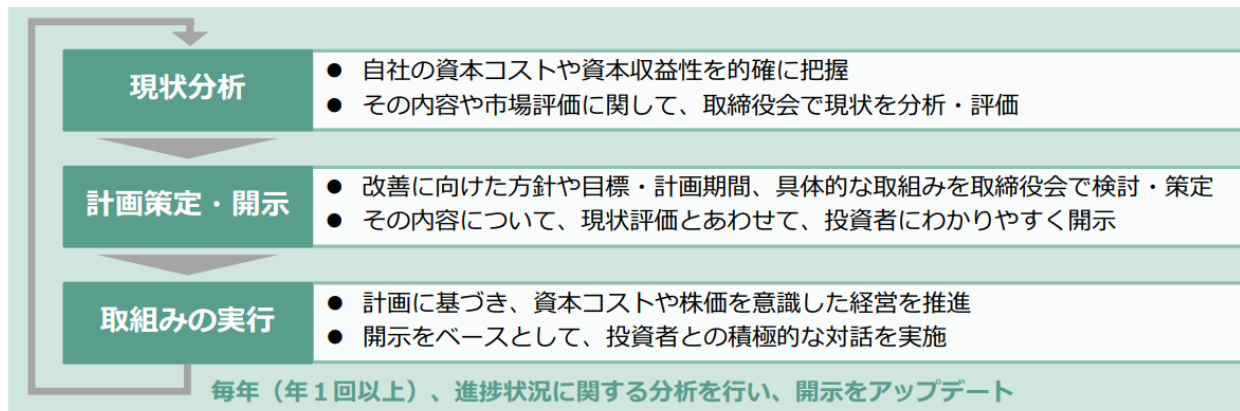


対象

- プライム市場・スタンダード市場の全上場会社が対象です。

対応

- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、以下の一連の対応について、継続的な実施をお願いいたします。



※ 各対応を実施するにあたってのポイント・留意事項について、P3以降で取りまとめております。

開始時期

- 計画策定・開示の前提として**十分な現状分析や検討を行っていただくことが肝要**であることから、開示について具体的な開始時期の定めはありませんが、**できる限り速やかな対応**をお願いいたします。
 - ※ 現状分析や検討に一定の期間を要する場合には、まずは計画策定・開示に向けた検討状況や開示の見込み時期を示したうえで、計画策定が完了した時点で改めて具体的な内容について開示するなど、段階的に開示を拡充していくことも考えられます。

PBR (株価純資産倍率)

$$= \text{ROE (自己資本利益率)} \times \text{PER (株価収益率)}$$

- PBR
= ROE ÷ (株主資本コスト - 利益成長率)
とも表される

福井銀行のPBR

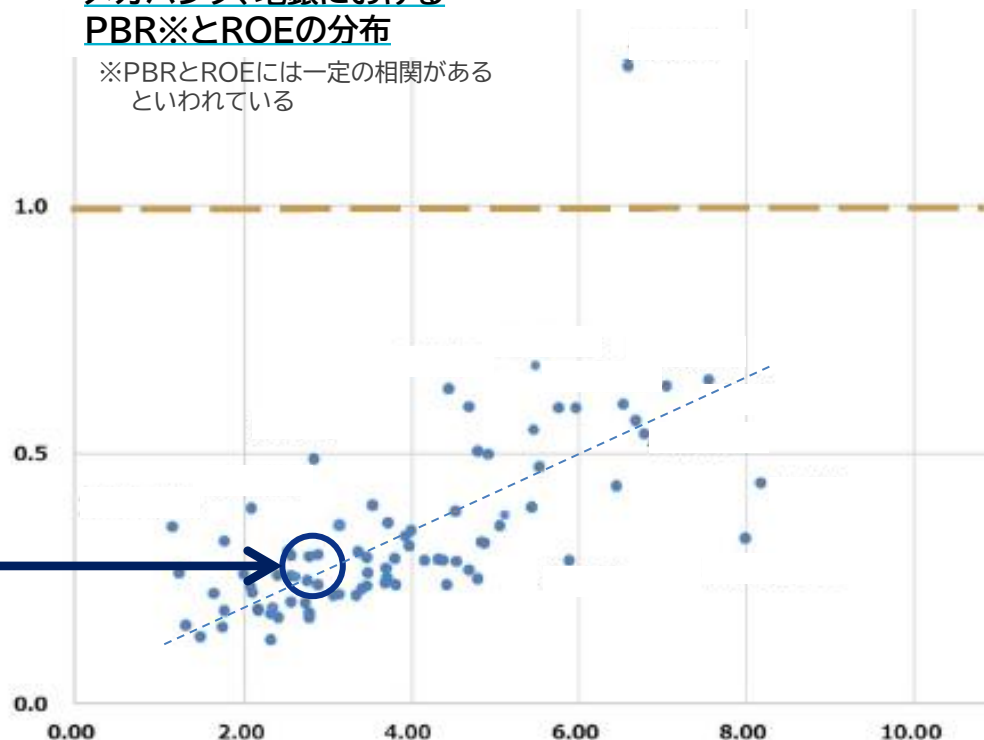
= 0.29倍

(連結ベース 2023年9月末実績)

P
B
R

メガバンク、地銀における PBR※とROEの分布

※PBRとROEには一定の相関がある
といわれている



当行のPBR、ROEは相対的に低位。
ROE向上を通じた企業価値向上は重要と認識

連結予想ROE(2024/3期)

外部証券会社提供資料より引用

ROE向上にむけて

ROE
の向上

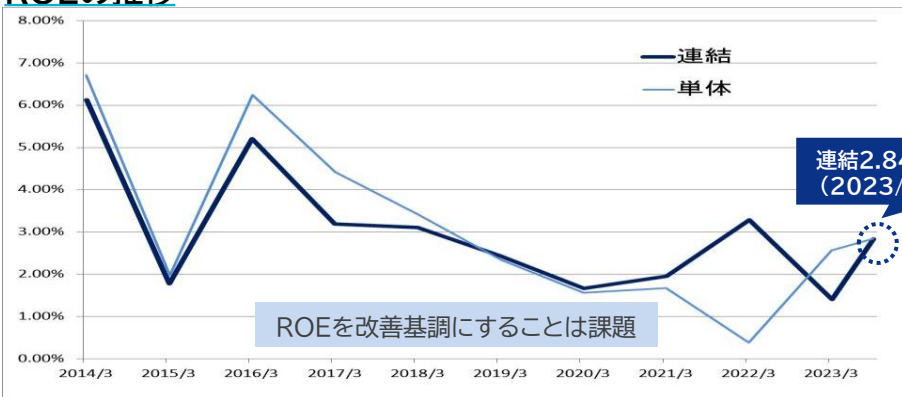
$$\text{ROE} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{純資産}} = 2.84\% \quad (\text{連結ベース 2023年中間期末実績})$$

自己資本比率
の改善

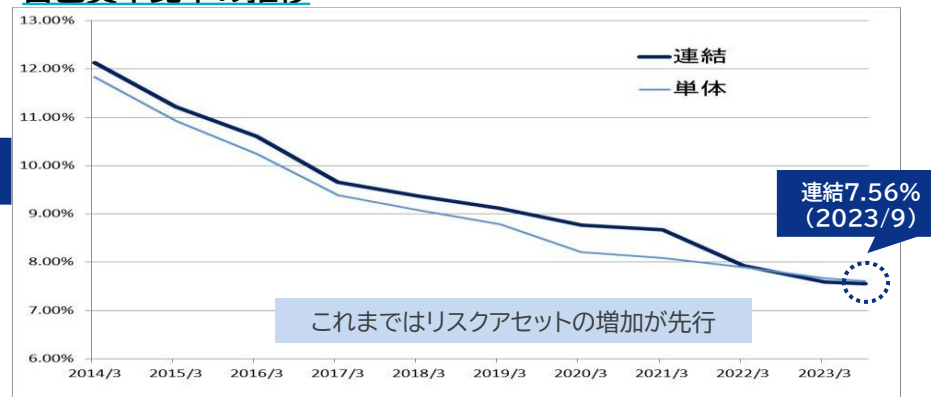
$$\text{銀行法上の自己資本比率} = \frac{\text{自己資本}^{\ast}}{\text{リスクアセット}} = 7.56\% \quad (\text{連結ベース 2023年9月末実績})$$

※会計上の純資産が大半を占める

ROEの推移



自己資本比率の推移



自己資本比率は 規制自己資本比率および地銀他行比の両面から 改善させていく現状
→→→ ROE向上にむけては 分子のReturn(利益)の増強が出発点

ROE向上と自己資本比率向上の両立への取組み

中期経営計画 I

3年

目標経営指標

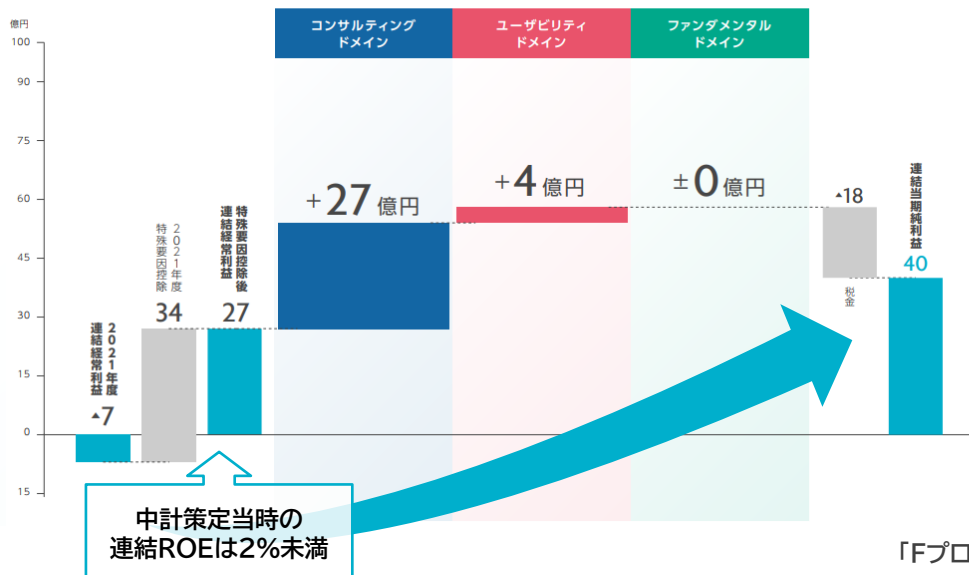
連結当期純利益
40 億円以上

連結自己資本比率
7.0 %以上

連結コアOHR
77 %以下

連結ROE
3.0 %以上

中期経営計画 I
目標経営指標



配当方針 (福井銀行)

- ▶ リスクに見合った十分な自己資本を確保しつつ業績を上げ、安定的・継続的に配当を行うことに加え、業績に連動した利益配分を実施することを基本方針としています
- ▶ 1株当たり年間50円の安定配当に業績連動配当を合わせた配当性向を20%程度とすることを目標としています
- ▶ 内部留保金につきましては、株主価値の向上につなげるべく、システム等のインフラ整備・強化に投資し、強固な経営体質の構築に努めてまいります

「FプロジェクトVision2032」公表資料より抜粋

- ✓ **連結ROE**
地銀平均水準の **3.0%以上**へ
- ✓ **連結当期純利益**
連結ROE3.0%を達成する水準の **40億円以上**へ
- ✓ **連結自己資本比率**
連結ROE・連結当期純利益達成により **改善基調**へ

PBR改善、資本コストを意識した取組みを現在の中期経営計画に盛り込む

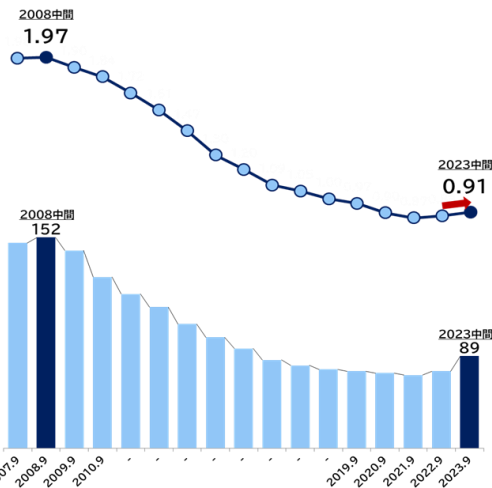
ROE増強に向けた現中計の取組状況(抜粋)

収益面では

- ① 貸出金利息増強
- ② グループコンサルティング強化
- ③ 野村証券株式会社との金融商品仲介業務における包括的業務提携を軸としたアセットコンサルティング強化

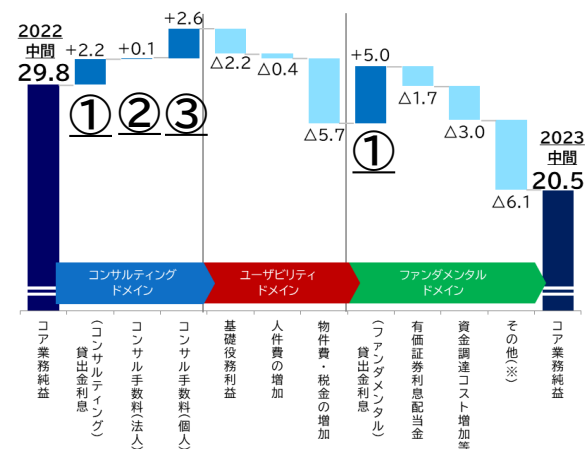
を柱に取組み中

①貸出金利息増強



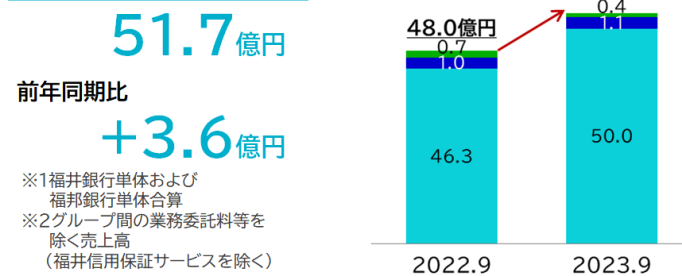
【ドメイン別】コア業務純益の増減

福井銀行(単体)・除く投信解約損益



②グループコンサルティング強化

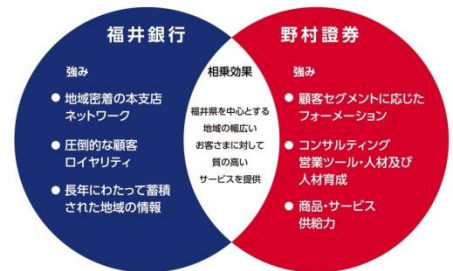
法人コンサルティング収益(※1)
+グループ会社売上高(※2)



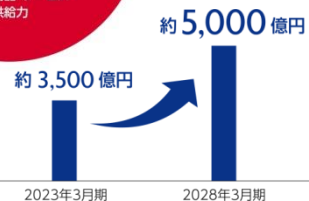
※1福井銀行単体および福邦銀行単体合算
※2グループ間の業務委託料等を除く売上高(福井信用保証サービスを除く)

③アセットコンサルティング強化

金融商品仲介業務における包括的業務提携

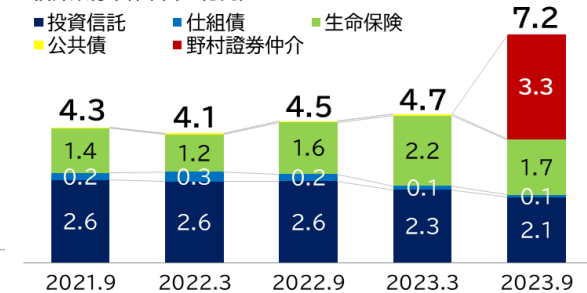


2028年3月期までに両社合計の預り資産残高を5,000億円へ拡大することを目指す



アセットコンサルティング手数料推移

※福井銀行単体(単位:億円)



長期ビジョン、中期経営計画を通じたROE向上

長期ビジョン最終年度のチャレンジゴール 連結当期純利益100億円で、 ROE5.7%程度を見込める水準へ

チャレンジゴール

職員、お客さま、地域のチャレンジに伴走した先に、
4つのゴールを目指します。



ウェルビーイングを実感する
職員の比率

100%

1人あたりの福井県民所得*

+100万円

福井県活力人口*

100万人

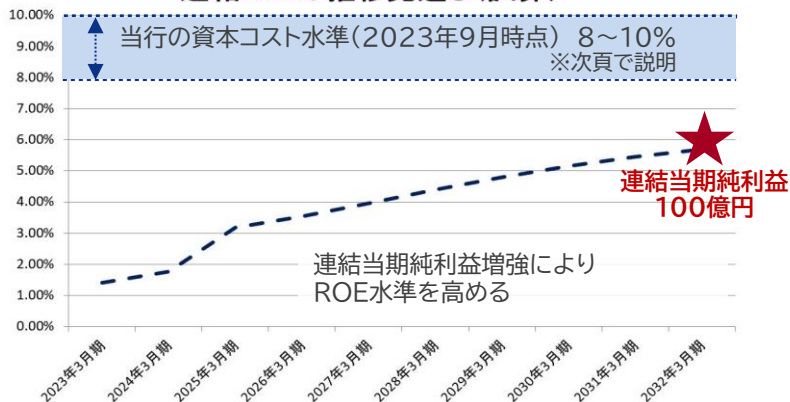
連結当期純利益

100億円

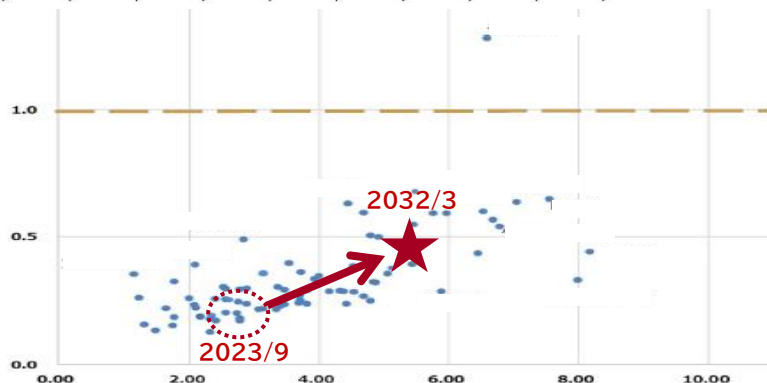
「FプロジェクトVision2032」公表資料より抜粋

福井県を中心基盤として展開する地銀として、福井県とともに成長・発展する人的資本を高め、地域価値、法人のお客さまの企業価値、個人のお客さまの資産価値を高めることに貢献し、地域やお客さまにとって必要不可欠な存在となることを目指す。
それにより経営基盤、収益基盤を強固なものとし、2032年には連結当期純利益100億円へ。

連結ROEの推移見通し(試算)



P
B
R



連結予想ROE(2024/3期)

地域価値循環モデルにみあう資本コストへの取組み

ROEの「利益増強」による改善

$$\text{PBR} = \text{ROE} \div (\text{資本コスト} - \text{利益成長率})$$

※**資本コスト** = リスクフリーレート + リスクプレミアム × **当行β(ベータ)値**

CAPM
(Capital Asset
Pricing Model)に基づく

長期国債の利回り
10年国債あるいは
20年国債

TOPIX もしくは 東証
プライム全銘柄 の利回り
ー リスクフリーレート

TOPIX等指標変動に
対する当行株価の
連動の度合い

前提条件複数あるが
2023年9月時点では
当行の資本コストは
8~10%程度

- ✓ 株主はじめとするステークホルダーへの説明を通して、当行ビジネスモデル「地域価値循環モデル」への理解を高めてもらうことで、ベータ値が低下し資本コストの将来的な低下にもつながる。
- ✓ 決算説明資料の充実や、決算説明会や投資家との対話機会を増加させつつ、対話の概要もホームページにて適時公表予定。

これまでのステークホルダーとの対話からいただいているご意見の一部

- ・ビジョンの方向性や見せ方は理解できるので、具体的な営業現場への浸透施策や収益増強実現の道筋を示してほしい。
- ・ドメイン(事業領域)別での整理と計画は地銀としては斬新。ドメイン別でのRORA、ROIもあわせた収益増強行程がほしい。
- ・今後の人的資本経営でなにを基本に考えているか。 ・貸出金利息や貸出金利回りの反転はプラス材料として大きい。
- ・PBR1倍にはあとどれだけ株価を上げる必要があるか。 ・自社株買いは検討しているか。 ・自己資本比率の水準をどう考えるか。
- ・有価証券運用や調達コストの増加をどう考えているか。 ・北陸新幹線延伸への影響は。 ・株主とのコミュニケーションを増やす工夫を。



4. | サステナビリティへの 取組み

*F*プロジェクト
Future for Fukui &
Fukuibank & Fukuohbank



いつも、いつでも、いつまでも。
福井銀行



ゆめBANK
福邦銀行

マテリアリティ(重要課題)と具体的な取組み

「地域産業の助成」「地域社会へ貢献」という想いを受け継ぎ、
 地域と共に歩んできた取組みは持続的な地域社会の実現そのもの。

持続可能な地域社会の実現に向け、サステナビリティに関する重要事項(マテリアリティ)を定め、
 気候変動や人的資本経営などの具体的な取組みを実施

重要課題(マテリアリティ)		具体的な取組み	関連するSDGs
	TCFDへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ● ESG投融资の拡大 ● 気候変動リスク・機会に関する情報開示 ● 自社のCO₂削減 	
	環境保全の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林整備活動を通じた自然環境の維持と環境保全意識の向上 ● ペーパーレスの推進 	
	ウェルビーイングの実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な考え方や働き方の受容 ● 職員一人ひとりの働きやすさと働きがいの向上 ● 地域・グループの持続的成長に貢献できる人材の育成 ● 健康経営の推進 	
	事業成長や資産形成の実現 活力にあふれた地域の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● コンサルティング機能の発揮 ● ユーザビリティの高い金融インフラの提供 ● 次世代・若年層への金融リテラシー向上支援 ● 持続可能なまちづくりの支援 	
	Fプロジェクトの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● コストシナジーの実現と適正な資源再配置 ● グループとしてのリスク管理の高度化 	

気候変動に対する取組み

カーボンニュートラルの実現に向けた、お客さまの脱炭素支援とFプロジェクトにおけるCO₂削減への取組み

お客さまの脱炭素支援

- ✓ 各ステップに応じたソリューションを提供



<ふくぎん> サステナブルローンの取扱開始

<ふくぎん> グリーンローン

<ふくぎん> サスティナビリティ・リンク・ローン

- ✓ お客さまのカーボンニュートラルやSDGs・ESGへの取組みを資金面からサポート。

Fプロジェクトによる脱炭素支援件数

2022年4月～
2023年9月累計
(2行合算)

319件

FプロジェクトのCO₂削減への取組み



消費電力の
再エネ化



新店舗の
ZEB化



高効率機器の
導入



環境対応車の
導入

- ✓ 2023年5月8日に福井銀行金沢支店・福邦銀行金沢支店を新築・移転。一次エネルギー消費量を75%削減する「Nearly ZEB(ニアリー・ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」建築を採用。
- ✓ 金沢支店の営業車として電気自動車を導入



人的資本経営に関する取組み

ウェルビーイング実現のためのキーファクターを4つに分類し、キーファクターに紐づく施策を実施。

理念・方針

理念・方針への理解が深まり、共感して行動につなげる

- 理念教育の継続
- タウンホールミーティングの開催
- インナープロモーションの強化



組織・風土

心理的安全性が高まり、チャレンジが生まれる組織・風土を構築

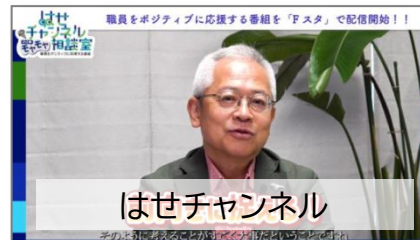
- マネジメント改革の継続
- ダイバーシティの推進
- 1on1ミーティングの定着



環境・処遇

いきいきと働ける環境や納得性の高い処遇を実現

- 人事制度の定着
- 健康経営の強化
- 働き方改革の進化
- 初任給の引き上げ



意欲・成長

働きがいが高まり、高い目標へのチャレンジを通じて成長を実感する

- 考え方教育の開始
- キャリアプランの形成の支援
- リスキングの強化

- 事前に株式会社福井銀行の許可を得ることなく本資料を転写・複製し、または第三者に配布することを禁止します。
- 本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。また、本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正・変更されることがあります。
- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があることにご留意ください。

【本資料に関するお問い合わせ先】

株式会社福井銀行

経営管理グループ(担当:北出)

TEL:0776-25-8012